

<p>データサイエンス</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ AI 時代における企業経営と人材育成</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ データサイエンス ■ 意思決定 ■ 人材育成 ■ 組織経営 	<p>背景:</p> <p>前職の大阪ガスにて、20 年間にわたり、社内データサイエンティストとしてビジネスに貢献する経験を積んできました。後半の 10 年間は、データ分析専門組織を立上げ、そのリーダーとして社内に定着させてきました。一貫して経験したことは、データや AI を武器とすれども、最後は人を動かさなければ、会社の中では機能しないことです。分析力で現場の仕事のやり方を変える、分析チームのメンバーを役立つ人材に育てる、経営層に自分たちの取り組みを分かってもらおう。しかしながら、データ分析と違って、人の心は筋書き通りには動かさません。そういう苦労を重ねながら歩み続け、気づけば「データ分析」と「人の心を動かす」の両者をこなせるようになりました。そして、20 年間に渡る失敗や苦労を積み重ねて至った自らの仕事のやり方や人の育て方、また、分析組織の運営方法について、形式知として書籍や講演会で広く発信するようになりました。</p>
	<p>研究分野:</p> <p>① 企業内のデータ分析専門人材のマインドチェンジ</p> <p>単なる分析屋さんから、分析力を武器として企業に役立つ人材に成長させるにはどうすれば良いか。その育成方法や適性について、前職での経験をベースにしなが、様々な企業で頑張っている分析者の方々との対話機会を活用して、事例研究を行っています。</p> <p>主な業績：「会社を変える分析の力」(講談社現代新書) 「データ分析と意思決定の狭間」とそれを埋める力」(情報処理学会デジタルプラクティス論文誌)</p>
<p>河本 薫 Kaoru Kawamoto</p>	<p>② 企業内におけるデータ分析専門組織のマネジメント</p> <p>間接部門にデータ分析専門組織を設けた場合に、継続的にビジネス成果を出し、継続的に有能な人材を維持する、継続的に経営層から認知される、そういった組織にするにはどうすれば良いか。そのマネジメント方法について、前職での経験をベースにしなが、幾つかの企業へのアドバイザー経験を通して、事例研究を行っています。</p> <p>主な業績：「最強のデータ分析組織」(日経 BP) 「企業においてデータからの情報形成力を強化するのに必要なミッションと推進体のあり方」(日本情報経営学会誌)</p>
<p>データサイエンス学部 教授</p>	<p>③ AI 時代に生き残る企業の要件</p> <p>データ分析人材の育成やデータ分析組織の定着に成功しても、それだけでは目の課題しか解決できません。現行の業務プロセスを抜本的に見直す、さらには、自社のビジネスモデルを破壊して再構築するようなイノベーション型企業になるには、経営層やミドル層の力や会社全体でイノベーションに舵をきれる社内風土が不可欠です。では、経営層やミドル層にはどのような能力が必要なのか、社内の制度や文化として何が重要なのか。それについて、前職での経験をベースにしなが、成功企業と失敗企業の対比をヒアリングを通して明らかにするなどして研究を行っています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1991 年 京都大学 工学系研究科 応用システム科学専攻 修了、大阪ガス(株)入社 ・1998 年 米国ローレンスバークレー 国立研究所 客員研究員 ・2000 年 大阪ガス(株)入社 ・2011 年 社内データ分析専門チーム「ビジネスアナリティクスセンター」所長に就任 ・2018 年 滋賀大学 データサイエンス 学部 教授 	<p>学外活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野町アナリティクス Hub(発起人) 関西の企業で活躍するデータ分析専門家のコミュニティです。2017 年 1 月に立上げ、2 か月に 1 回のペースで開催しています。踏み込んだ議論をするため、業界 1 社だけ参加 OK という条件で運営しています。現在、25 社が参加しています。 ・丸の内アナリティクス(理事) 東京と関西の企業で活躍するデータ分析専門家の集まりです。(株)グラフ社長の原田さんが立上げたコミュニティです。理事の 1 人として、運営に携わっています。 ・製造業向け AI・IoT 人材育成セミナー(企画&講義) 製造業ミドル向けに AI/IoT の活用や開発について「こういうことか」と感覚的に腹落ちしてもらおうセミナーです。関西生産性本部およびオーグス総研と協力して実施しています。
<p>【専門分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学 ・エネルギー工学 <p>【主な著作・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「会社を変える分析の力」 講談社現代新書, 2013. ・「最強のデータ分析組織」 日経 BP 社, 2017. ・『企業においてデータからの情報形成力を強化するのに必要なミッションと推進体のあり方』日本情報経営学会誌, Vol31, No3, pp.32-40, 2011 ・『データ分析と意思決定の狭間とそれを埋める力』情報処理学会デジタルプラクティス誌 Vol6, No3, pp.183-189, 2015. (デジタルプラクティス論文賞) 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>社会人向けに、大学院講義において、「意思決定とデータサイエンス」という他に例のない講義を開発しました。本講義は、データと分析手法だけではビジネスに役立つに足りないものを教える講義です。大学院への入学をお待ちしております。</p>